

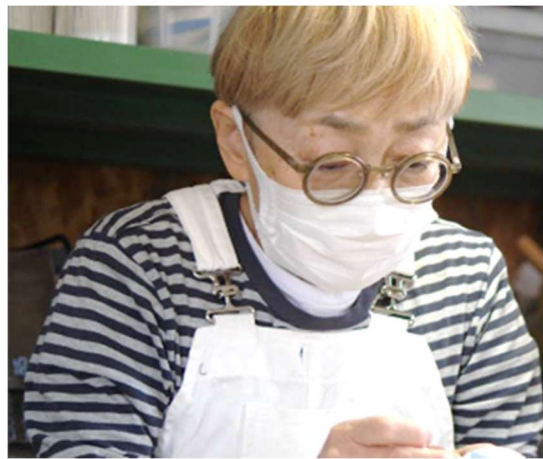
とう げい
陶 芸

一度は途絶えた幻の技法「漆蒔」を制作



とくだ よしみ
徳田 吉美

明治期、陶磁器上絵付の集積地として栄えた北区。その伝統の土壌で磨かれ、一度は途絶えた幻の技法「漆蒔」を岐阜県多治見市に工房を構えて、制作している陶芸家です。北区美術展審査員を務めています。



うるしまき
漆蒔とは

漆の粘着力を利用し、漆を塗った上に粉状の絵の具をまぶしつけその後焼成します。漆は焼けてしまい、絵の具だけが焼き付きます。とても美しい発色と艶が特徴の独特の技法です。

本人のコメント

先人たちが残してくれた知恵を、私というフィルターを通して形にし、今という時代の空気の中で呼吸させてゆきたいと思うのです。



(写真提供：徳田吉美・セラミックパーク美濃)